

2020年度 3Q決算

投資家様向け説明資料



2021年1月27日
オムロン株式会社

皆さんこんにちは。
CFOの日戸でございます。

本日は大変お忙しいところ弊社の「2020年度 第3四半期決算説明会」にご参加いただき、誠にありがとうございます。

今回も、新型コロナウイルス、感染拡大防止のため、リモートでの決算発表とさせていただきます。

本日の説明会でも通常の説明会と同様、まず私が業績についてプレゼンを致します。その後、ヘルスケアの成長戦略について私から、さらに制御機器事業の成長戦略についてIABカンパニー社長の宮永からプレゼンを致します。プレゼンの後は、Q&Aセッションに入ります。できるだけたくさんの質問を受けたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、Webサイトに掲載しているプレゼンテーション資料に沿って説明致します。ZOOMで参加されている方は、画面上に資料を投影します。

まずは、1ページの発表のポイントをご覧ください。

発表のポイント

■ 2020年度 3Q累計実績

- ・ 3Q期間（10～12月）は増収増益。3Q累計でも増益を達成。
- ・ 売上総利益率は引き続き向上。3Q累計で過去最高を更新。
- ・ 注力事業である制御機器事業、ヘルスケア事業が、業績を牽引。

■ 2020年度 通期見通し

- ・ 通期見通しを増益見通しに上方修正。期末配当予想42円を据え置く。
- ・ グローバルで堅調な3Qの事業環境が継続する見通し。
- ・ 引き続き制御機器事業、ヘルスケア事業が、業績を牽引。

■ ヘルスケア事業と制御機器事業の成長戦略

- ・ ヘルスケア事業は、拡大する血圧計市場において、他社が追随できない強みを活かしてさらなる成長を実現。
- ・ 制御機器事業は、ロボット統合コントローラを中心としてi-Automation!を進化。

Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

1

本日の発表のポイントは 3点あります。

まずは 2020年度 3Q累計実績です。

10月から 12月の 3Q期間が増収増益となった結果、
3Q累計においても増益を達成しました。

グローバルに事業環境が改善傾向で、売上が戻ってきています。

売上総利益率は引き続き向上し、3Q累計で過去最高を更新しました。

セグメント別では、主力の制御機器事業とヘルスケア事業が、
全社の業績を牽引しました。

次に、2020年度通期見通しです。

従来が減益見通しから増益見通しに上方修正します。

なお期末配当予想は 42円を据え置きます。

グローバルで堅調な 3Qの事業環境が継続する見通しで、

引き続き注力事業である制御機器事業、ヘルスケア事業が、業績を牽引します。

最後に、ヘルスケア事業と制御機器事業の成長戦略です。

ヘルスケア事業は拡大する血圧計市場において、

他社が追随できない強みを活かしてさらなる成長を実現していきます。

ヘルスケア事業の競争力の源泉について、私から少し詳しく説明いたします。

制御機器事業は、ロボット統合コントローラを中心とした
i-Automation!の進化について宮永から説明いたします。

それでは、4ページをご覧ください。

1. 2020年度 3Q累計実績	P. 3
2. 2020年度 通期見通し	P. 10
3. ヘルスケア事業の成長戦略	P. 17
4. 制御機器事業の成長戦略	P. 25
- 参考資料 -	P. 37



2020年度 3Q累計実績

3Q実績 (10-12月) セグメント別 売上高

3Q期間は社会システム事業以外は増収。3Q期間に変化あり。

	2019年度 3Q実績	2020年度 3Q実績	(億円) 前年同期比
制御機器事業 (IAB)	875	880	+0.5%
電子部品事業 (EMC)	214	230	+7.5%
社会システム事業 (SSB)	272	212	△22.1%
ヘルスケア事業 (HCB)	307	350	+13.9%
本社他 (消去調整含む)	12	11	△8.6%
合計	1,681	1,683	+0.1%

*本社直轄事業傘下の環境事業をSSBに移管したこと、バックライト事業の収束に伴い、2019年度の実績を組み替えて表示しています。

Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

4

通常であれば、3Q累計の説明をするのですが、
今回は、3Qの3か月間に顕著な動きがあったので、
まず初めに3Q期間のセグメント別売上高を、説明します。

制御機器事業は、2Qまでの減収から +0.5%の増収に転じました。

電子部品事業も同様に、+7.5%の増収に転じました。

社会システム事業は、継続して厳しく、22.1%の減収となりました。

ヘルスケア事業は、引き続き好調を継続し、+13.9%の増収となりました。

これらの結果、全社では +0.1%の増収となりました。

5ページをご覧ください。

3Q累計実績

減収幅が縮小し、増益を達成。売上総利益率は過去最高を更新。

	2019年度 3Q累計実績	2020年度 3Q累計実績	(億円) 前年同期比
売上高	4,983	4,696	△5.8%
売上総利益 (売上総利益率)	2,252 (45.2%)	2,139 (45.6%)	△5.0% (+0.4P)
営業利益 (営業利益率)	401 (8.0%)	424 (9.0%)	+5.8% (+1.0P)
当期純利益	326*	339	+4.1%
米ドル 平均レート (円)	109.1	106.2	△2.9
ユーロ 平均レート (円)	121.3	121.8	+0.5
人民元 平均レート (円)	15.7	15.3	△0.4

*2019年度の当期純利益は非継続事業四半期純利益を除く。なお、非継続事業四半期純利益を含むと710億円。

Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

5

この好調な 3Q期間の売上もあり、3Q累計実績はご覧の通りとなりました。

売上高は 4,696億円、売上総利益 2,139億円、
売上総利益率 45.6%、営業利益 424億円、
当期純利益 339億円となりました。

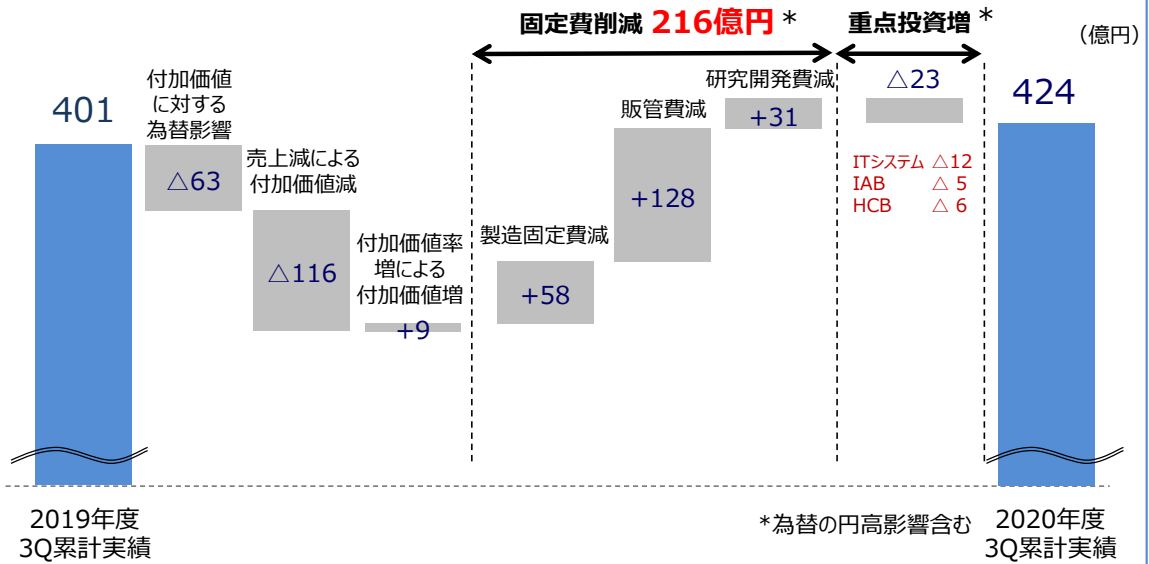
3Q期間にグローバルに事業環境が改善し、
売上が戻ってきたことで、減収幅が縮小し、増益を達成しました。

売上総利益率は、前年から 0.4P向上させて過去最高を更新しました。
これまで継続的に進めてきた事業ポートフォリオの入れ替えや変動費コストダウン、
付加価値の高い新商品やソリューションビジネスの拡大が寄与しました。
稼ぐ力が確実に伸び続けています。

次に、6ページをご覧ください。

営業利益増減（前年同期差）

売上の回復、売上総利益率向上、固定費マネジメントによって増益を達成。
重点投資を実行しながら、期初計画200億円の固定費削減を前倒して完遂。



Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

6

こちらは営業利益の増減を前年と比較したステップチャートです。

前のページで説明したように、3Qの売上回復に加え、売上総利益率の向上と固定費マネジメントによって増益を達成しました。

チャートの一番左をご覧ください。 昨年の営業利益は 401億円です。為替による 63億円の付加価値に対するマイナス影響を受けました。さらに売上減による付加価値の減少が 116億円となりました。このような中でも、付加価値率は前年から向上させ、9億円のプラスに寄与しました。

そして、製造固定費と販管費を大幅に削減しており、研究開発費は厳選した内容をメリハリをつけて実行しました。

これらの結果、チャートの中央に赤字で示しているように、期初に計画した年間 200億円規模の固定費削減を前倒して完遂させました。

なお、重点投資は チャートの右側に記載の通り、IT投資を中心に 23億円増加させました。

7ページをご覧ください。

セグメント別 売上高

制御機器事業はグローバルでの需要回復を的確に捉え、減収幅を縮小。
ヘルスケア事業は引き続き力強く成長し、全エリアで増収を達成。 (億円)

	2019年度 3Q累計実績	2020年度 3Q累計実績	前年同期比
制御機器事業 (IAB)	2,654	2,529	△4.7%
電子部品事業 (EMC)	673	618	△8.1%
社会システム事業 (SSB)	737	586	△20.4%
ヘルスケア事業 (HCB)	853	925	+8.4%
本社他 (消去調整含む)	66	37	△43.4%
合計	4,983	4,696	△5.8%

*本社直轄事業傘下の環境事業をSSBに移管したこと、バックライト事業の収束に伴い、2019年度の実績を組み替えて表示しています。

Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

7

セグメント別の売上高はご覧の通りです。

制御機器事業は、中国を中心とする製造業全体の投資再開による需要回復の動きを的確に捉えて減収幅を縮小させました。停滞していた自動車業界も回復の兆しが出てきています。従来から強化してきたオートメーションセンタやSEを活用し、現地のニーズをいち早くみ取ることで、グローバルでの売上成長に結び付けています。次のスライドで詳しく説明します。

電子部品事業は、好調な米州と中国を中心に需要を捉えて減収幅を縮小させました。

社会システム事業は、コロナ影響による鉄道事業者の投資抑制により減収となりました。

ヘルスケア事業は、引き続き力強く成長し、全エリアで増収を達成しました。血圧計の販売が好調で、体温計の増産も売上拡大に寄与しました。

8ページをご覧ください。

制御機器事業 (IAB) 3Q期間エリア別 売上高成長率

3Q期間(10-12月)において、中華圏は大幅成長。
グローバルの需要が回復し、他エリアでも減収幅が縮小。

2020年度 3Q期間(10-12月) 制御機器事業 エリア別 売上高成長率

(前年同期比、現地通貨ベース)

日本	米州	欧州	中華圏	東南アジア他	
				韓国以外	韓国のみ
△12%	△7%	△1%	+37%	±0%	△2%
2Q累計 (△12%)	(△12%)	(△15%)	(+19%)	(△15%)	(+17%)

Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

8

次に、制御機器事業のエリア別の状況を説明いたします。

こちらの表は、制御機器事業の3Q期間、10月から12月のエリア別売上を前年同期と比較したものです。

このスライドでお伝えしたいことが、3つあります。

1つ目は、中国が+37%と大幅に成長したことです。

市場の伸びを上回って大きく成長しました。

これは、半導体関連や二次電池などデジタル業界で拡大する需要を的確に捉えたのはもちろん、太陽光発電などの他の業界でも売上を拡大した結果です。

2つ目は、中国以外のエリアも回復基調にあることです。

グローバルの需要回復という市場変化を着実に捉えて、減収幅を縮小させました。

3つ目は、これらの売上回復の原動力が、これまで取り組んできた中長期的な戦略の成果だということです。モノづくり革新コンセプトである、i-Automation!によってトータルソリューションの提供に注力し、中国でいち早くオートメーションセンターやSEを強化したことによって、現地でのアプリケーションを充実させ、ターゲット顧客に入り込んできました。

9ページをご覧ください。

セグメント別 営業利益

**制御機器事業、電子部品事業、ヘルスケア事業は増益を達成。
特にヘルスケア事業は大幅な売上増加によって高い営業利益率を実現。**

(億円、%：営業利益率)

	2019年度 3Q累計実績	2020年度 3Q累計実績	前年同期差
制御機器事業 (I A B)	407 (15.3%)	419 (16.6%)	+12 (+1.2P)
電子部品事業 (E M C)	9 (1.4%)	15 (2.5%)	+6 (+1.1P)
社会システム事業 (S S B)	43 (5.9%)	△ 6 (-)	△ 50 (-)
ヘルスケア事業 (H C B)	112 (13.2%)	169 (18.3%)	+57 (+5.1P)
本社他 (消去調整含む)	△ 170	△ 173	△ 2
合計	401 (8.0%)	424 (9.0%)	+23 (+1.0P)

*本社直轄事業傘下の環境事業をSSBIに移管したこと、バックライト事業の取束に伴い、2019年度の実績を組み替えて表示しています。

Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

9

次にセグメント別の営業利益を説明します。

制御機器事業、電子部品事業、ヘルスケア事業が増益となりました。

特に、ヘルスケア事業は売上増加に加えて、利益率も向上し、
大幅増益を実現しました。

これまで取り組んできたオンライン販売のチャネル拡大や生産体制の強化により、
血圧計や体温計の需要増にクイックに対応した結果が表れています。

3Q累計実績の説明は以上です。

次は通期の見通しについてです。

11ページをご覧ください。



2020年度 通期見通し

4Q見通し (1-3月) 事業セグメント別 事業環境認識 (2Q見通しからの変化)

制御機器事業を中心に、グローバルで緩やかな回復を見込む。

制御機器事業 (IAB)	自動車： EV/ADASは好調継続。ガソリン車向けはMRO*需要を中心に緩やかな回復を見込む。 デジタル： 中国で半導体、スマホの需要が増加、好調を見込む。 食品・日用品： コロナ関連需要の継続により、底堅い推移を見込む。 社会インフラ： 中国では5Gや太陽光を中心に好調。全体としては横ばいを見込む。
電子部品事業 (EMC)	民生： まだら模様はあるが、全体的に緩やかな回復を見込む。特に中国市場が回復基調。 車載： 米州、中国市場を中心に回復基調を見込む。
社会システム事業 (SSB)	鉄道： 投資抑制の動きが継続しており、需要低調を見込む。 交通： 堅調な更新需要の継続を見込む。 エネルギー： コロナ影響で回復の遅延を見込む。
ヘルスケア事業 (HCB)	血圧計： オンライン販売を中心にグローバルで好調継続を見込む。 その他： 体温計、体重体組成計などが好調継続を見込む。

*MRO; Maintenance Repair Order

Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

11

こちらは 4Q期間、1月から 3月の事業環境認識を示しています。
3Q期間に引き続き、緩やかな回復を見込んでいます。

制御機器事業は、中国の好調が他のエリアに波及しており、
グローバルで緩やかな回復基調が継続します。

特に、自動車業界は、EV/ADAS向け が引き続き好調です。
ガソリン車向け設備のメンテナンス・リペア・オーダーの需要は
3Q以降、回復基調に転じています。

また、デジタル業界は、中国を中心に、半導体、スマホの需要が増加し、
好調を見込んでいます。

食品・日用品業界 や 社会インフラ業界も、底堅い推移を見込んでいます。

電子部品事業も、米州や中国を中心に民生、車載ともに回復を見込んでいます。

社会システム事業は、鉄道関連の 投資抑制の 動きが継続する見込みです。
一方で、交通管制は 堅調な 更新需要の 継続を 見込んでいます。

ヘルスケア事業は、血圧計が、オンライン販売を中心にグローバルで好調に
推移すると見えています。また、体温計、体重体組成計なども好調の見込みです。

12ページをご覧ください。

通期見通し

通期見通しを上方修正。減益から一転して、営業利益、当期純利益ともに増益を見込む。コロナ禍においても、過去最高の売上総利益率達成を見込む。

	2020年度 前回見通し	2020年度 今回見通し	前回見通し比・差	(億円)	
				2019年度 実績	前年度比・差
売上高	6,200	6,450	+4.0%	6,780	△4.9%
売上総利益 (売上総利益率)	2,795 (45.1%)	2,930 (45.4%)	+4.8% (+0.3P)	3,037 (44.8%)	△3.5% (+0.6P)
営業利益 (営業利益率)	400 (6.5%)	560 (8.7%)	+40.0% (+2.2P)	548 (8.1%)	+2.3% (+0.6P)
当期純利益	240	400	+66.7%	392*	+2.1%
米ドル 平均レート (円)	105.9	105.9	△0.0	109.1	△3.2
ユーロ 平均レート (円)	122.5	122.4	△0.1	121.2	+1.2
人民元 平均レート (円)	15.2	15.3	+0.1	15.7	△0.4

*2019年度の当期純利益は非継続事業当期純利益を除く。なお、非継続事業当期純利益を含むと749億円。

Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

12

2020年度の通期見通しです。
3Qの好調な売上が 4Qも継続すると見ており、
通期の業績見通しを上方修正します。

新たな通期見通しは、
売上高 6,450億円、売上総利益 2,930億円、
売上総利益率 45.4%、
営業利益 560億円、
当期純利益 400億円です。

売上回復に加え、売上総利益率の向上と固定費コントロールにより、
減益から一転して、営業利益、当期純利益ともに増益を見込んでいます。

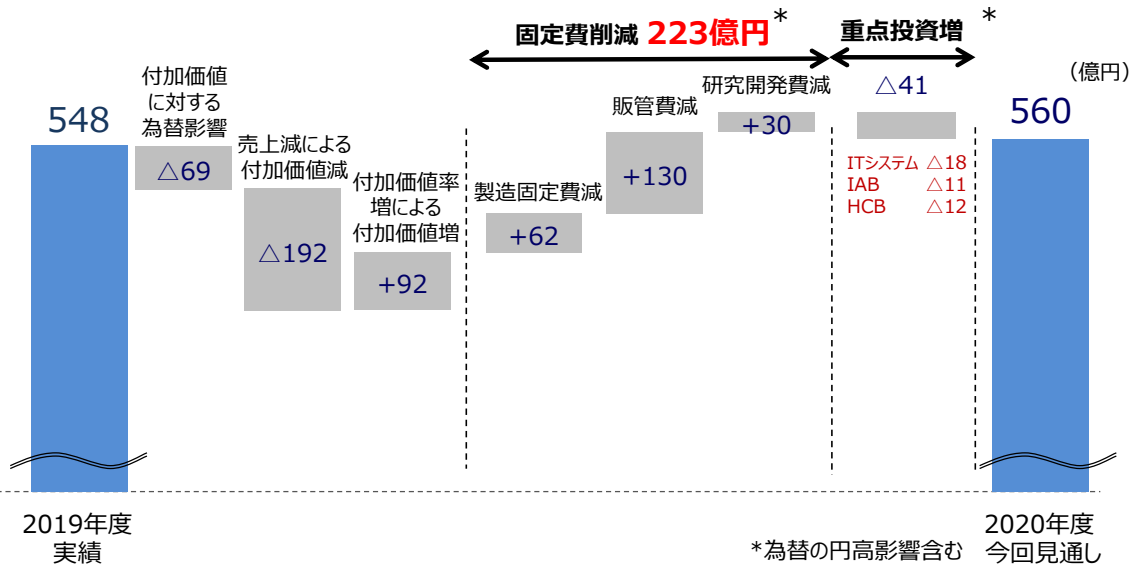
私たちが稼ぐ力の指標として最もこだわっている売上総利益率は、
コロナ禍においても過去最高を達成します。

注力している、制御機器事業とヘルスケア事業が
業績を牽引しています。

13ページをご覧ください。

営業利益増減（前年度差）

売上の回復、売上総利益率の向上、固定費削減の実行により、増益を見込む。
一方で来期を見据えた重点投資を実行し、成長力を強化する。



Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

13

こちらは、今回の営業利益の見通しを前年の実績と比較したステップチャートです。

前のページで説明したように、3Q、4Qで売上が戻ってきていることに加え、売上総利益率の向上、そして年間 200億円規模の固定費削減によって、増益を見込みます。

チャートの一番左をご覧ください。 昨年の営業利益 548億円です。

左から順番に示している通り、
為替や売上減による付加価値減のマイナス影響を、
付加価値率アップや、固定費削減によってカバーします。
来期を見据えた重点投資もきっちりとやっていきます。
その結果、チャートの右に示している通り、
営業利益見通しは 560億円となります。

次に 14ページをご覧ください。

セグメント別 売上高

制御機器事業、電子部品事業、ヘルスケア事業で上方修正。

(億円)

	2020年度 前回見通し	2020年度 今回見通し	前回見通し比	2019年度 実績	前年度比
制御機器事業 (IAB)	3,220	3,400	+5.6%	3,528	△3.6%
電子部品事業 (EMC)	810	840	+3.7%	884	△4.9%
社会システム事業 (SSB)	930	930	±0.0%	1,160	△19.8%
ヘルスケア事業 (HCB)	1,190	1,220	+2.5%	1,120	+8.9%
本社他 (消去調整含む)	50	60	+20.0%	89	△32.2%
合計	6,200	6,450	+4.0%	6,780	△4.9%

* 本社直轄事業傘下の環境事業をSSBに移管したこと、バックライト事業の収束に伴い、2019年度の実績を組み替えて表示しています。

セグメント別の売上高はご覧の通りです。

制御機器事業、電子部品事業、ヘルスケア事業で、
売上高見通しを上方修正します。

制御機器事業では、3Qから継続する、中国を中心としたデジタル業界の好調と自動車業界の緩やかな回復を織り込み、見通しを引き上げました。
需要を着実に捉えて売上に結びつけていきます。

ヘルスケア事業も、血圧計や体温計の旺盛な需要を織り込み、
見通しを引き上げました。

次に 15ページをご覧ください。

セグメント別 営業利益

制御機器事業、ヘルスケア事業を中心に上方修正。

(億円、%：営業利益率)

	2020年度 前回見通し	2020年度 今回見通し	前回見通し差	2019年度 実績	前年度差
制御機器事業 (IAB)	440 (13.7%)	550 (16.2%)	+110 (+2.5P)	536 (15.2%)	+14 (+1.0P)
電子部品事業 (EMC)	10 (1.2%)	25 (3.0%)	+15 (+1.7P)	9 (1.0%)	+16 (+1.9P)
社会システム事業 (SSB)	50 (5.4%)	50 (5.4%)	±0 (±0.0P)	109 (9.4%)	△59 (△4.0P)
ヘルスケア事業 (HCB)	170 (14.3%)	200 (16.4%)	+30 (+2.1P)	135 (12.1%)	+65 (+4.3P)
本社他 (消去調整含む)	△270	△265	+5	△241	△24
合計	400 (6.5%)	560 (8.7%)	+160 (+2.2P)	548 (8.1%)	+12 (+0.6P)

*本社直轄事業傘下の環境事業をSSBに移管したこと、バックライト事業の収束に伴い、2019年度の実績を組み替えて表示しています。

セグメント別の営業利益はご覧の通りです。

制御機器事業、ヘルスケア事業を中心に上方修正します。

どちらも、売上総利益率が高い事業のため、
売上増加が、営業利益額の増加に大きく効いてきます。

制御機器事業の営業利益率は 16.2%、
ヘルスケア事業の営業利益率は 16.4%と収益力は高まっています。

電子部品事業は、これまでの構造改革の成果もあり、
売上回復によって増益を見込みます。

社会システム事業は厳しい状況が続いていますが、
継続して取り組んできた収益力改善の効果も出てきており、
売上が大きく落ちる中でも 50億円の利益は確保できる見通しです。

通期見通しについての説明は以上です。

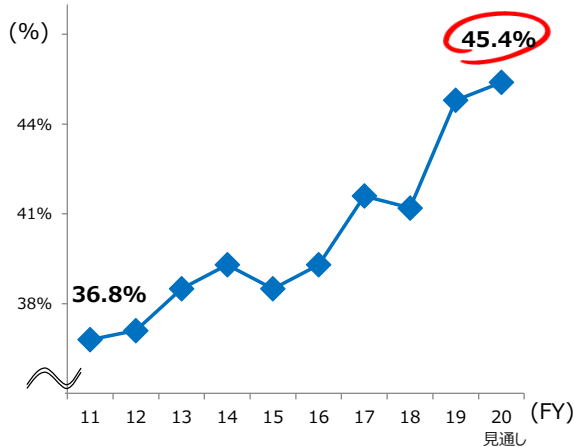
このパートの最後に、CFOとしてのこだわりをお伝えします。

16ページをご覧ください。

CFOとしてのこだわり

コロナ禍においても適切にオペレーションを実行。
 今後も、中長期的な企業価値向上のために成長サイクルを継続強化する。

売上総利益率の推移



Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

16

これまで徹底してきたROIC経営や変化対応力の強化によって、
 コロナ禍においても適切にマネジメントし、増益が達成できる見込みです。
 今後もさらに競争力を高める努力を続けてまいります。

スライドの左側に示している通り、売上総利益率を
 この10年で 36.8%から 45.4%まで大きく向上させてきました。
 同時に将来を見据えた投資など やるべきことをしっかりやってきました。

これからもCFOとして、固定費、投資、ポートフォリオなどの規律は守りながらも、
 今後は、さらに成長サイクルにおける投資を強化することで、
 成長を加速し、中長期的な企業価値の向上につなげていきます。

続いて、注力の柱の一つであるヘルスケア事業の取り組みについて
 詳しく説明します。

18ページをご覧ください。

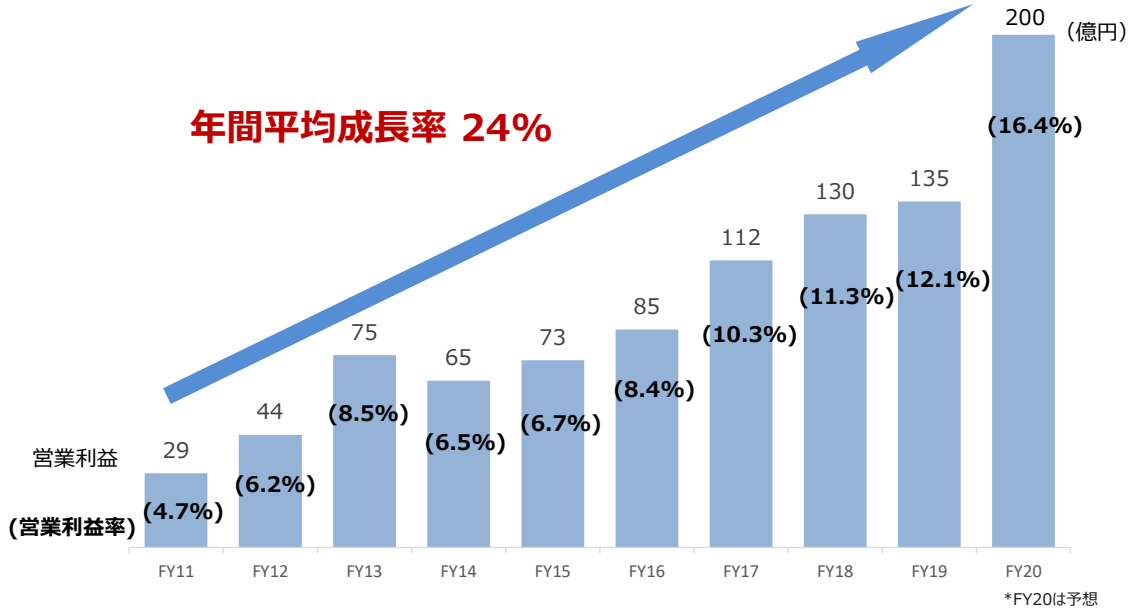


ヘルスケア事業の 成長戦略

ヘルスケア事業 営業利益の推移

過去10年、持続的成長を実現。

年間平均成長率 24%



Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

18

スライドで示している通り、オムロンのヘルスケア事業は、過去10年間で年平均24%の持続的な利益成長を実現してきました。今年度は営業利益が200億円となり、昨年度比約50%アップになる見込みです。血圧計と体温計が大幅増益に貢献しています。

今年度は、コロナ感染拡大により生活者の健康増進や予防に対する意識が変わり、それに伴い血圧計市場が拡大しました。これは一過性のものではなく、アフターコロナにおいてもその需要拡大は継続していくと考えています。また、体温測定も習慣化しつつあり、一家に一台から一人一台に変化しつつあります。

今後も、市場は拡大します。持続的な成長は可能であると考えています。

19ページをご覧ください。

ヘルスケア事業の強み（血圧計事業）

消費者向け医療機器である家庭用血圧計市場で、
グローバルシェアNo1（50%*）を獲得。

オムロンの強み

医学界からの高い信頼

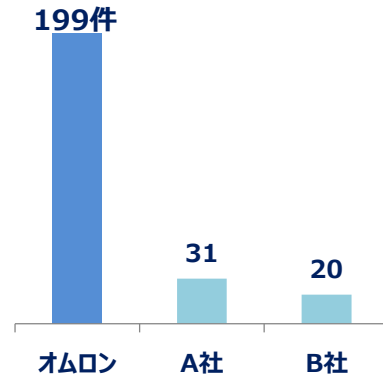
- ・研究論文でのオムロン血圧計採用数No.1

グローバルチャネル基盤

- ・取扱い薬局店舗数
FY16 50万軒 → FY20 56万軒
- ・売上に占めるオンラインチャネル構成比
FY16 15% → FY20 25%

グローバルでの許認可取得体制

- ・許認可取得国数 90カ国

研究論文での
オムロン血圧計の採用件数**

* 自社調べ

** 抽出条件：“家庭血圧”をベースに白衣高血圧、仮面高血圧を含むキーワードでPubMedから検索。

主要6誌：Circulation, Hypertension, J Hypertension, J Hum Hypertens., Am J Hypertens. Blood Press. Monit. の研究論文のみ対象

期間：2000年～2018年11月

Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

19

このヘルスケア事業を支えているのが血圧計事業です。

消費者向けの医療機器というユニークな市場において高い競争力を築くことで、
グローバルで 50%もの 圧倒的な シェアNo1のポジションを獲得しています。

その原動力となっている強みは 3つです。

1つ目は、医学界からの高い信頼を得ていることです。

オムロンの血圧計は、家庭血圧に関する研究論文に圧倒的な件数で、
採用されてきました。

医学界と連携し、家庭血圧値のガイドライン化にも寄与してきました。

2つ目は、グローバルでのチャネル基盤です。

グローバルでの薬局の取り扱い店舗数は、56万軒を超えるまでに
拡大しています。近年では、消費者の購買行動の変化に伴い、
オンラインチャネルを拡大しています。

3つ目は、グローバルでの許認可取得体制です。

世界 90カ国で許認可を取得しています。

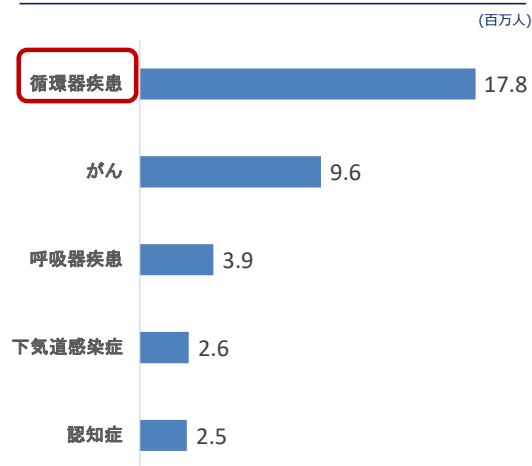
これら 3つの強みに さらに磨きをかけて、血圧計事業を成長させて
いきます。次に血圧計市場のポテンシャルについて説明いたします。

20ページをご覧ください。

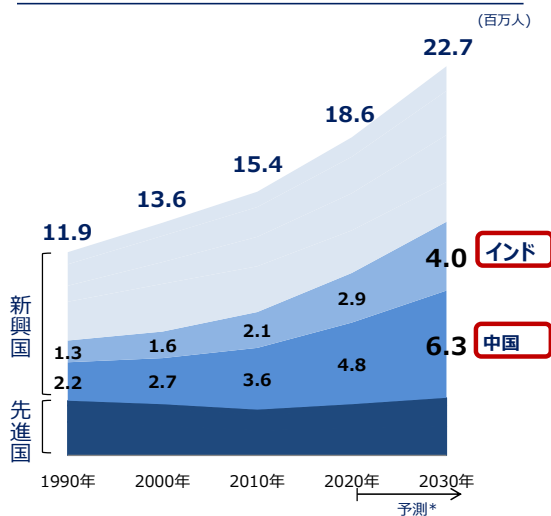
ヘルスケア事業 高血圧症の治療に対する重要性の拡大

循環器疾患は、世界の疾患別死亡原因（非感染症）の第1位。
患者数は、中国・インドを筆頭に2030年までに更に拡大する見込み。

2017年 疾患別死亡者数（グローバル）



心血管疾患による死亡者数の推移



出典：Global Burden of Disease Collaborative Network 2018
※ 予測値は2018年までのトレンドに基づき自社で算出

Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

20

こちらは、世界の疾患別の死亡原因と主要国における心血管疾患による死亡者数の推移と予測を示したグラフです。

感染症を除くと世界の疾患別の死亡原因の第1位が循環器疾患です。2017年度の調査によりますと、グローバルでは年間約1,800万人が循環器疾患で亡くなっています。

また、中国・インドなどの新興国を中心に、引き続き心血管疾患による患者数は増加すると予測されています。

これらは本人および家族への身体的・経済的・心理的負担だけでなく、医療費全体に圧迫を強いる社会的課題です。

脳梗塞、心筋梗塞などの心血管疾患の原因の一つと言われている高血圧症の治療に対する需要は今後も増していきます。

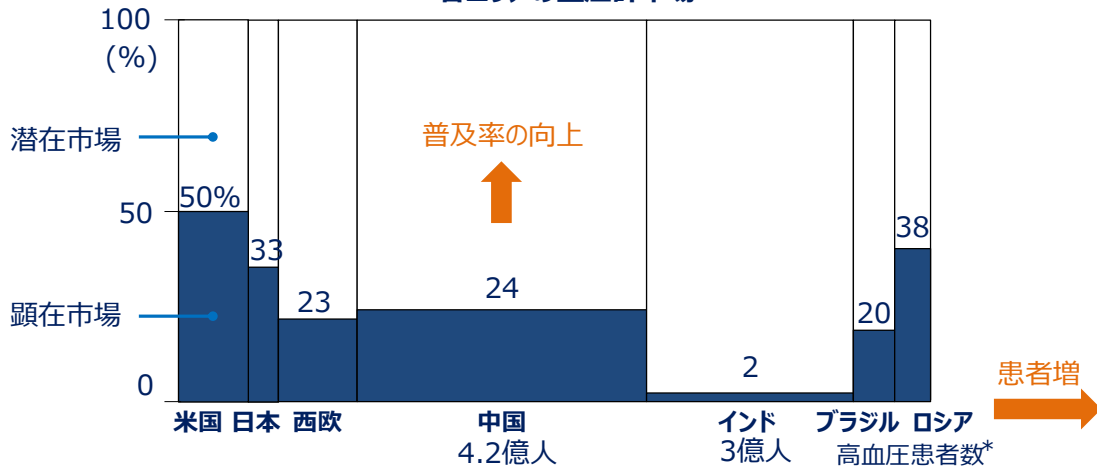
21ページをご覧ください。

ヘルスケア事業 主要国における血圧計市場

新興国を中心に、グローバルで血圧計の潜在市場は大きい。
 加えて先進国では、高齢化に伴う高血圧患者数の増加に伴い、市場が拡大。

血圧計普及率**

各エリアの血圧計市場



* 高血圧患者数：WHO発表の各国の成人高血圧率と各国の成人人口から算出

** 血圧計普及率：推定高血圧患者数と買替サイクルを5年としたときの他社を含む血圧計の総販売台数の推定値から算出

Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

21

こちらのスライドは、世界の主要市場における高血圧患者数に対する血圧計の普及率を示した図です。

横軸が各国の高血圧の患者数、縦軸が血圧計の普及率を示しています。面積の広がり市場の全体規模を表しており、青い部分が顕在市場です。白い部分が潜在市場を表しています。

今後、先進国における高齢化や、新興国における生活水準の向上による、肥満の増加などを要因に、高血圧症の患者数は増えていきます。さらに生活者の健康増進や予防に対する意識が変わってきており、血圧計の普及率も高まっています。血圧計市場はまだまだ拡大します。

特に中国とインドに大きな成長余地があります。

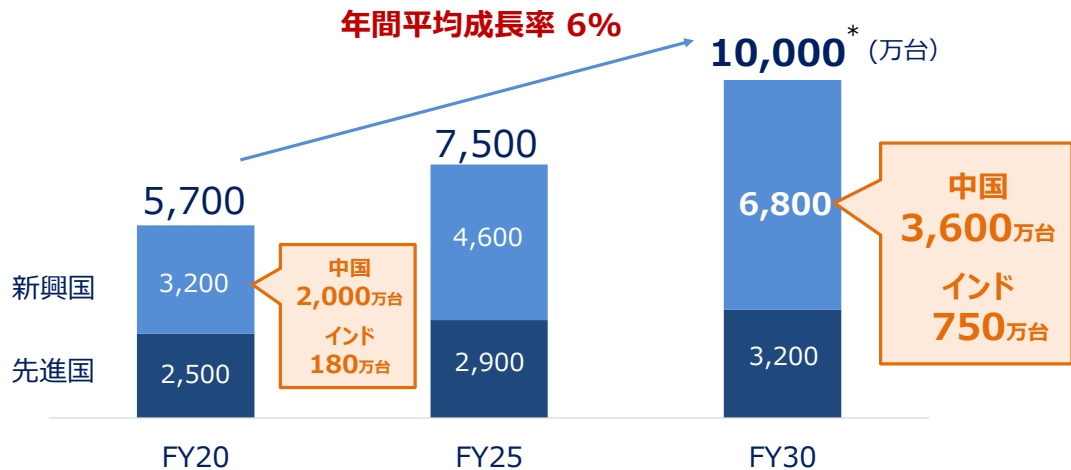
高血圧人口が4億人を超えている中国においては、血圧計普及率が日本と比較してまだ低いことに加えて、先進国と同様に今後急速に高齢化が進み、高血圧患者数のさらなる増加が見込まれます。

また、インドにおいても同様です。

22ページをご覧ください。

ヘルスケア事業 血圧計市場規模 (台数ベース)

血圧計のグローバル市場規模は、2030年に1億台に達する見込み。
強みの強化、活用により、中国とインドでの売上拡大を図る。



*2015年から2020年の血圧計市場全体の年間平均成長率を参考に自社で算出した予測値

Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

22

こちらは、今後の血圧計の市場台数を表したグラフです。
血圧計の市場は、先進国、新興国ともに、着実に拡大し、
アフターコロナでは成長スピードが加速すると考えています。
2030年には、血圧計の市場規模は年間 1億台に達すると予想しています。

特に、中国とインドにおいて大幅な市場拡大を見込んでいます。
中でもインドでは、オムロンが政府や医師会へ働きかけた効果もあり、
2019年 12月に薬事法が改正され、今年 1月から家庭血圧計が
許認可取得対象の医療機器となりました。
これにより、市場が拡大する条件が整いました。

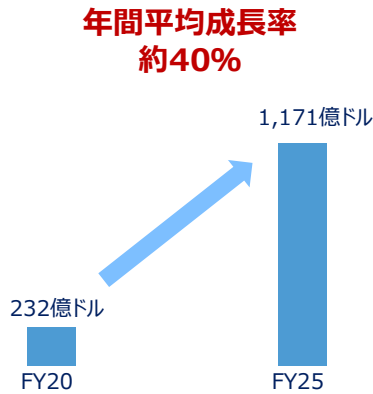
オムロンは、中国とインドの巨大な潜在市場において、
先ほど説明した強みを活かして、売上拡大を図っていきます。

具体的には中国、インドでのキドクターとの連携による 家庭血圧を用いた
診断・治療の 研究と普及活動の実施、取り扱い店の拡大、
そして医療機器 許認可の迅速な取得による市場投入です。
このように、拡大する血圧計市場において、継続して成長を実現します。
23ページをご覧ください。

ヘルスケア事業 遠隔診療サービスについて

医学界からの高い信頼を強みに、革新的デバイスの展開や
各国のパートナー企業との協創により、遠隔診療サービスを展開。

遠隔診療サービス市場の予測



出典：MarketsandMarkets 「RPMの世界市場予測」
(RPM:遠隔患者モニタリング)

オムロンの遠隔診療サービス

医学界からの高い信頼

研究論文でのオムロン血圧計の
高い採用率

+

革新デバイス

ウェアラブル血圧計 心電計付き血圧計



+

各国のパートナー企業との協創

日本、米国、オランダ、シンガポール、インド

そして、さらなる成長のために新たなビジネスモデルである遠隔診療サービスにも注力していきます。

遠隔診療サービスは、医療費の抑制や患者のQOL、生活の質を維持する観点から、グローバルでニーズが顕在化してきています。

さらに新型コロナウイルス感染拡大の影響により、通院せずに高血圧の治療を継続できるということからも需要が高まっています。

循環器疾患の領域を含む、遠隔診療サービスの全体の市場規模は今後5年間で、年間平均成長率40%で拡大する見通しです。

オムロンは、今まで築きあげてきた医学界からの高い信頼をベースに、革新的デバイスを活用し、各国のパートナー企業とも協創してまいります。

これにより、グローバルでの遠隔診療サービスの立ち上げを加速し、今後も循環器疾患領域でさらなる成長を実現していきます。

24ページをご覧ください。

ヘルスケア 循環器事業のビジョン



オムロン ヘルスケアは『**ゼロイベント**』を目指します。
『ゼロイベント』とは、**脳卒中**や**心筋梗塞**など、
高血圧が原因で起こる、**生死につながり寝たきりなどの**
原因となる疾患（イベント）を、ゼロにすること。

本日お話した通り、ヘルスケア事業では、血圧計と遠隔診療サービスを
ドライバーに事業成長を加速してまいります。

これにより、脳卒中や心筋梗塞といった、生死につながる重篤な疾患の発症を
ゼロにする「ゼロイベント」を実現してまいります。

ここまで業績とヘルスケア事業の成長戦略について、私、日戸から説明しました。
次に宮永から制御機器事業の成長戦略について説明します。

では、宮永さんよろしくお願いたします。



制御機器事業の 成長戦略

Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

25

皆さん、こんにちは。IABカンパニー長の宮永です。

本日はここ数年取り組んできた、
新しいモノづくりのコンセプトであるi-Automation!と、
それをさらなる次元に進化させるロボット統合コントローラを中心に、
我々の成長戦略を説明します。

私の経歴

**宮永 裕****オムロン株式会社****執行役員副社長****インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー社長**

1985年	4月	入社	インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー配属
2008年	3月	グループ戦略室	経営戦略部長に就任
2010年	6月	執行役員に就任	
2011年	3月	グローバル戦略本部長に就任	
2013年	4月	執行役員常務に就任	
2014年	3月	インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー社長に就任	
〃	4月	執行役員専務に就任	
2017年	4月	執行役員副社長に就任	

まずはじめに自己紹介します。

2014年にIABカンパニー長に就任し、今年で 7年目になります。

オムロン独自の価値創造コンセプト

3つの“i”で、モノ作り現場に *innovation* を起こす

知能化

*intelligent*データの最大活用による
学習・進化するモノづくりの実現

制御進化

*integrated*超高速・超高精度の機械制御
による生産性向上*i*-Automation!*interactive*

人と機械の新しい協調

人と機械の協働による
超柔軟性の追求

IoT

Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

27

これがオムロンの独自の価値創造コンセプトです。

3つの “i” が、革新的な商品やアプリケーションをお届けする、重要なキーワードになっております。

まずは制御進化、integrated。

これは様々な機器と高度なソフトウェアを組み合わせ、すり合わせることによって、非常にスムーズで高精度な制御を成し遂げたり、人間しかできないような繊細な作業を自動化するといったイノベーションを起こしています。

次は知能化、intelligent。

設備が学習しながら進化する、こういった新しい次元のオートメーションを追求しています。

そして最後は、interactive。

人と機械が今までとは違った新しい関係で調和し合う、そういったモノづくりを追求しています。

完全な自動化ではなく、人と機械がお互いに長所、短所を補完し合いながら、新しいオートメーションを実現します。

i-Automation! を実現するソリューション群 = 制御アプリケーション

ソリューションビジネスを実現する 制御商品をソフトウェアで擦り合わせた170種以上の制御アプリケーション



Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

28

それらを実現するのが、アプリケーションです。

i-Automation!を実現するソリューション群と言ってもよいです。

「ねじ締め制御」や「ロボット連携制御」、「巻き線制御」など、様々な機器と高度なソフトウェアを組み合わせることによって、お客様にソリューションとしてお届けしています。

我々はアプリケーションによって顧客に価値を届けるということに徹底的にこだわっています。

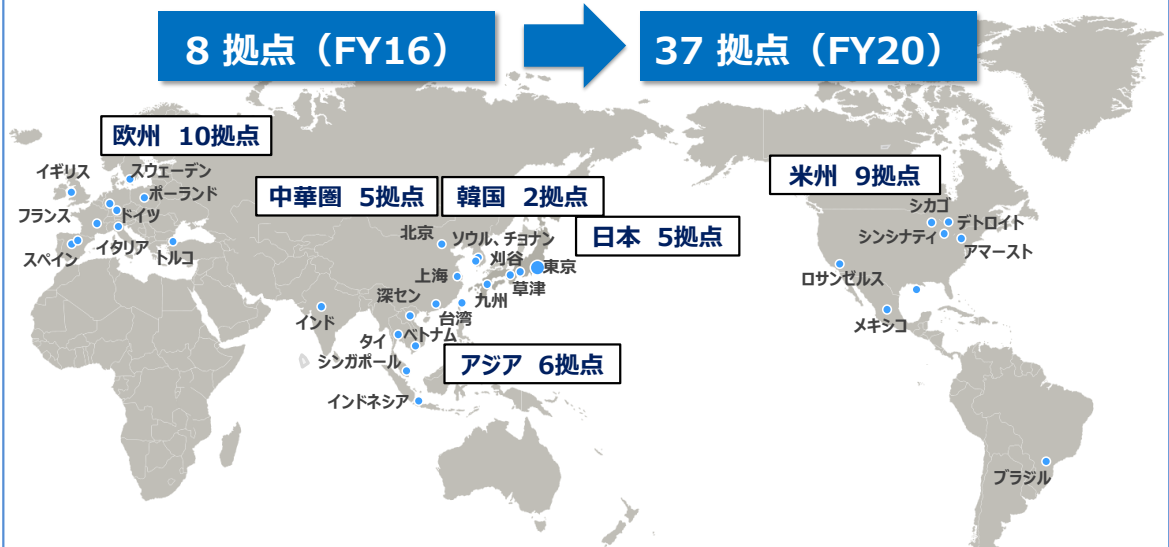
170以上の制御アプリケーションを今まで開発してきました。
170の中にも顧客別の派生的なアプリケーションも数多くあるため、すでに数百個のアプリケーションを市場に投入しています。

顧客と共に制御アプリケーションを開発するオートメーションセンタ

グローバルで1000名を超えるセールスエンジニアが顧客と“共創”

8 拠点 (FY16)

37 拠点 (FY20)



Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

29

それを実現しているのが、オートメーションセンタです。

世界各地にある商品開発部門だけでなく、お客様の近くにいるSEがアプリケーションを開発して、場合によってはお客様と一緒に実験し、評価し、そしてまた新しいアプリケーションを開発していきます。

この顧客密着型、現場密着型のアプリケーション開発を価値創造の中心にしております。

2020年度にはグローバル 37拠点に拡大しました。各地の優良な顧客が存在するエリアに、グローバルで1,000名を超えるSEを配置し、アプリケーションを提供する。これが大きな強みとなっています。

制御アプリケーションの核となる“ILOR+S”

M & Aにより充実したポートフォリオによる I L O R + S。
ロボット統合コントローラを核に、I L O R + Sがより“密結合”に。



Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

30

SEに加えて、オムロンしかできない商品の組み合わせがアプリケーションを実現する、もう一つの大きな要素です。従来から保有する 20万点の商品ラインナップに加えて、過去 5年間で 4件のM&Aによって事業ポートフォリオを補完してまいりました。

ILOR+Sについて説明します。

Inputは、センサです。目や触覚にあたります。

Logicは、コントローラです。頭脳にあたります。

Outputは、手足にあたります。

そしてR、これはRobotを表しています。

Safetyは、危険から人間を守るためにSafetyの回路やセンサで機械をSafetyの状態に担保するために使用する機器です。

このILOR+Sをいかに上手に組み合わせるかによって、

先ほどのアプリケーションが実現できます。

昨年発売したロボットコントローラによって、これらの“密結合”が実現できました。

そして、もう一つのキーは、それを可能にするソフトウェアです。

このソフトウェアを世界中のオートメーションセンタで創ってきました。

これによって、i-Automation!が次の次元にステップアップできたと思っています。

ロボット統合コントローラによる i-Automation!の大進化

新たなゲームチェンジ

設計・立ち上げ

稼働

改良・メンテ

✓単一言語による
プログラミングコントローラ
言語

ロボット言語

✓ I L O R + S
シームレスソリューション

✓ソフトウェアがキーに

✓装置全体の見える化



✓リモートメンテナンス

✓シミュレーション



Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

31

i-Automation!が進化したことをゲームチェンジと言っています。

設計・立ち上げ、稼働、改良・メンテというプロセスでモノづくりは行われています。

稼働について、ILOR+Sのシームレスなソリューションを、先ほどの統合コントローラたった1台でやり切ります。これによって、お客様に対して今までになかった価値を提供できるようになりました。後ほど動画を見せながら説明します。

設計・立ち上げにおいても、One Controllerが全ての価値を生んでいます。これからは単一の言語だけでシンプルにトータルの制御を実現することができます。これは昨今、人手不足に悩んでいるお客様も多く、大きな経営的な価値があると考えています。そして立ち上げる前に現場の動きをシミュレーションできます。お客様のトータルの歩留まりを上げる、リードタイムを上げることに貢献できます。

そして改良・メンテにもOne Controllerが新たな価値として効いてきます。コントローラを介して、装置全体を見える化できるようになります。何か不具合があったり調子が悪いのも、全て一つのコックピットで見ることができる、これが今までになかった新たなお客様にとっての価値です。コロナ影響もあり現場に行くことができないケースも増えており、非常に苦労されています。この困難を簡単に乗り越え、そして安定的な稼働を実現することができます。

設計・立ち上げ、そして稼働、改良・メンテと、3つの工程を描いてありますが、ど真ん中のOne Controllerコンセプトによって、今までになかった効果効率的なオートメーションを実現することができます。

これがi-Automation!が次の次元にさらに進化したということです。

ロボット統合コントローラで進化する *i*-Automation! ①

ロボット統合コントローラならではの、“シームレスソリューション”



※映像は自社での検証時

Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

32

それでは動画をご覧ください。

左側が従来の制御で、右側がロボット統合コントローラで制御している様子です。

カメラを付けたロボットが動きながら検査しています。

左側がざっと1サイクル 13秒以上かかっていますが、

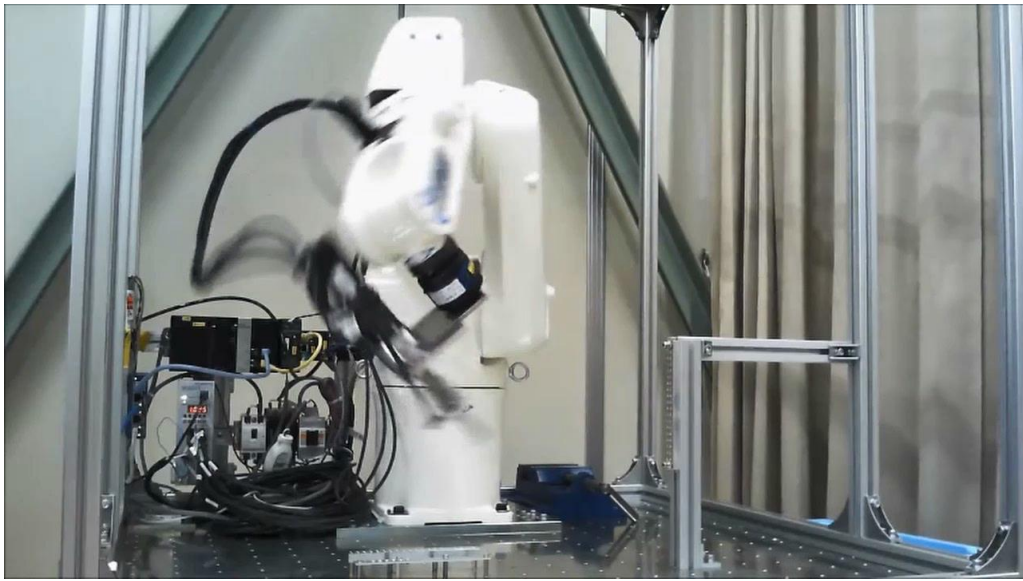
右側は1サイクル 9秒ぐらいで、30%のスピードアップを実現しています。

これは生産現場ではお客様にとって生産性の革新的な向上につながります。

先ほどありましたようにOne Controllerによるシームレスなスムーズな制御の例となります。

ロボット統合コントローラで進化する i-Automation! ②

人しかできない繊細な作業の自動化



Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

33

次に、人しかできない作業、i-Automation!のintegratedについて動画で紹介します。

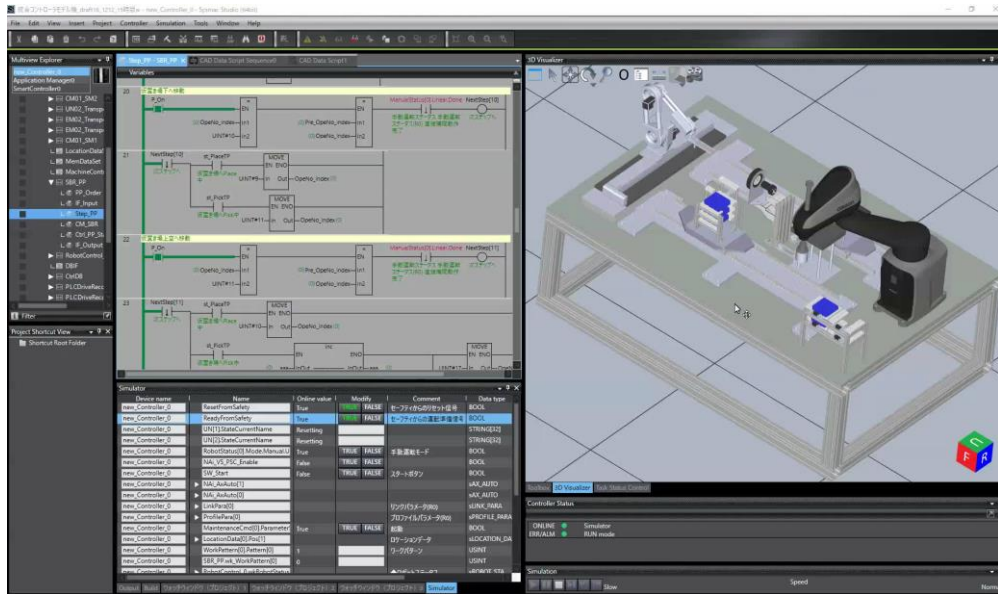
非常に微妙で繊細な作業は、これまで自動化ができない工程ばかりでした。それをロボット統合コントローラによって自動化しています。

人間は非常に器用なもので、ねじ締めやコネクタの挿入など、微妙に探りを入れながら作業することができます。

そういったものは、なかなかロボットには今までできませんでしたが、トータルに全ての制御をすり合わせることにより、できるようになりました。これからの高齢化社会において、世界的な省人化に貢献する大きな革新を生むと考えています。

ロボット統合コントローラで進化する i-Automation! ③

シミュレーションとリモートメンテナンス



Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

34

次は、シミュレーションとリモートメンテナンスです。

One Controllerでこういった全体像をモニタリングすることができます。

立ち上げる前に、こういった動きをバーチャルに再現することができ、さらに、場合によってはリモートで操作ができます。

ロボットのスピードを少し緩めたり速めたり、もしくは機器の操作をするなど、海外出張ができないこういった状況下では、これからお客様にとって大きな価値を生むだろうと考えています。

One Controllerによって事前のシミュレーション、そして事後のリモートのメンテナンスを容易に実現します。

オムロン独自の価値創造コンセプト

3つの“i”で、モノ作り現場に *innovation* を起こす

知能化

*intelligent*データの最大活用による
学習・進化するモノづくりの実現

制御進化

*integrated*超高速・超高精度の機械制御
による生産性向上*i*-Automation!*interactive*

人と機械の新しい協調

人と機械の協働による
超柔軟性の追求

IoT

Copyright: 2021 OMRON Corporation. All Rights Reserved.

35

昨年発売した統合コントローラが、よりオムロンユニークな、
そしてお客様にとっての新たな価値を生むと確信しております。
実際に、大きな手応えを感じており、市場からのフィードバックも得ている状況です。

今期はこの厳しい状況においても増益に持ち込みますが、
来期はこういった新しい強みを核に、さらなる成長を模索してまいります。
プレゼンは以上です。ありがとうございました。

OMRON



參考資料

セグメント区分の変更

環境事業の社会システム事業への移管、バックライト事業の収束に伴い
本社直轄(その他)セグメントを廃止する。

～2019年度

制御機器事業 (IAB)	
電子部品事業 (EMC)	
社会システム事業 (SSB)	
ヘルスケア事業 (HCB)	
本社直轄事業 (その他事業)	環境事業 バックライト
本社他(消去調整含む)	

2020年度～

制御機器事業 (IAB)	
電子部品事業 (EMC)	
社会システム事業 (SSB)	環境事業
ヘルスケア事業 (HCB)	
	収束 バックライト

連結貸借対照表

(億円)

	2020年3月末	2020年12月末	前年度末差
流動資産	4,471	4,555	+84
(現金及び現金同等物)	(1,855)	(2,114)	(+259)
(たな卸資産)	(1,043)	(1,085)	(+42)
有形固定資産	1,145	1,106	△39
投資その他の資産	1,965	2,011	+46
資産の部合計	7,581	7,672	+91
流動負債	1,513	1,341	△172
固定負債	742	691	△51
負債の部合計	2,255	2,032	△224
株主資本	5,304	5,617	+313
非支配持分	22	24	+2
純資産の部合計	5,326	5,641	+315
負債及び純資産合計	7,581	7,672	+91
株主資本比率	70.0%	73.2%	+3.2P

連結キャッシュ・フロー計算書

	2019年度 3Q累計実績	2020年度 3Q累計実績	(億円) 前年同期差
営業活動によるキャッシュ・フロー (営業CF)	614	626	+12
投資活動によるキャッシュ・フロー (投資CF)	569	△177	△746
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	1,183	450	△734
財務活動によるキャッシュ・フロー (財務CF)	△107	△204	△97
期末の現金残高	2,081	2,114	+33
設備投資	244	133	△111
減価償却費	188	172	△16

3Q実績 (10-12月)

(億円)

	2019年度 3Q実績	2020年度 3Q実績	前年同期比
売上高	1,681	1,683	+0.1%
売上総利益 (売上総利益率)	764 (45.4%)	776 (46.1%)	+1.6% (+0.7P)
営業利益 (営業利益率)	144 (8.5%)	177 (10.5%)	+23.3% (+2.0P)
当期純利益	101 [*]	147	+45.2%
米ドル 平均レート (円)	108.8	104.8	△4.0
ユーロ 平均レート (円)	120.0	123.6	+3.6
人民元 平均レート (円)	15.4	15.7	+0.3

*2019年度の当期純利益は非継続事業四半期純利益を除く。なお、非継続事業四半期純利益を含むと519億円。

3Q実績 (10-12月) セグメント別 営業利益

(億円、% : 営業利益率)

	2019年度 3Q実績	2020年度 3Q実績	前年同期差
制御機器事業 (IAB)	131 (14.9%)	155 (17.6%)	+24 (+2.7P)
電子部品事業 (EMC)	2 (1.1%)	12 (5.3%)	+10 (+4.2P)
社会システム事業 (SSB)	25 (9.1%)	6 (2.6%)	△19 (△6.5P)
ヘルスケア事業 (HCB)	44 (14.2%)	63 (18.1%)	+20 (+3.9P)
本社他 (消去調整含む)	△ 58	△ 59	△ 1
合計	144 (8.5%)	177 (10.5%)	+33 (+2.0P)

*本社直轄事業傘下の環境事業をSSBに移管したこと、バックライト事業の収束に伴い、2019年度の実績を組み替えて表示しています。

2020年度 為替前提

	2020年度 4Qの為替前提	1円変動による影響額（通期） *人民元は0.1円変動の影響額	
		売上高	営業利益
米ドル	105円	約13億円	約1億円
ユーロ	124円	約8億円	約4億円
人民元	15.2円	約7億円	約1億円

※ 新興国通貨等が、主要通貨に想定通り連動しなかった場合、感応度に影響を与えます。

主要ESGインデックスへの組み入れ (2021年1月現在)

<オムロンが選定されているESGインデックス >

- | | |
|------------------------------------|---------------|
| ✓ DJSI – World | 4年連続選定 |
| ✓ FTSE4Good Index Series | 5年連続選定 |
| ✓ MSCI ESG Leaders Indexes | 6年連続選定 |
| ✓ MSCI SRI Indexes | 4年連続選定 |
| ✓ STOXX Global ESG Leaders Indices | 5年連続選定 |
| ✓ FTSE Blossom Japan Index | 4年連続選定 |
| ✓ MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数 | 4年連続選定 |
| ✓ MSCI 日本株 女性活躍指数 | 4年連続選定 |
| ✓ S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数 | 3年連続選定 |

*オムロンでは、CDP気候変動・水に関する調査を含むESG評価機関による調査など、多くの外部からの調査に協力し、情報を開示しています。
2020年度評価：気候変動「A-」、水セキュリティ「A-」

Member of
**Dow Jones
Sustainability Indices**
Powered by the S&P Global CSA



2020 MSCI ESG Leaders
Indexes Constituent

THE INCLUSION OF OMRON CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF OMRON CORPORATION BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

STOXX

Member 2020/2021
**ESG Leaders
Indices**



**FTSE Blossom
Japan**

**2020 CONSTITUENT MSCI JAPAN
ESG SELECT LEADERS INDEX**

THE INCLUSION OF OMRON CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF OMRON CORPORATION BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.



**2020 CONSTITUENT MSCI JAPAN
EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN)**

THE INCLUSION OF OMRON CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF OMRON CORPORATION BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.



社外からの評価 (2021年1月現在)

<国内におけるESG関連表彰・銘柄選定>

一般社団法人 日本取締役協会 主催

- ✓ コーポレート・ガバナンス・オブ・ザ・イヤー2018 経済産業大臣賞 **2018年度受賞**



環境省 主催

- ✓ 平成30年度 地球温暖化防止活動大臣表彰
「対策活動実践・普及部門」を受賞 **2018年度受賞**



日本経済新聞社 主催

- ✓ 日経SDGs経営大賞「SDGs戦略・経済価値賞」を受賞 **2019年12月受賞**

経済産業省・東京証券取引所 選定

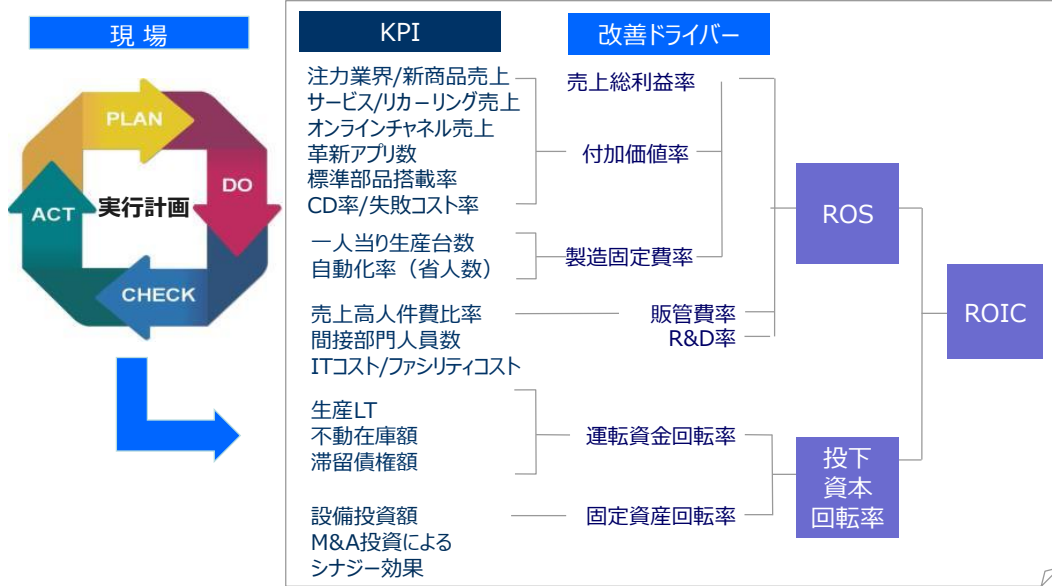
- ✓ 企業価値向上表彰 大賞 **2014年度受賞**
- ✓ なでしこ銘柄 **2017年度より3年連続選定**
- ✓ 健康経営銘柄 **2018年度より2年連続選定**
- ✓ 健康経営優良法人～ホワイト500～ **2016年度より4年連続選定**



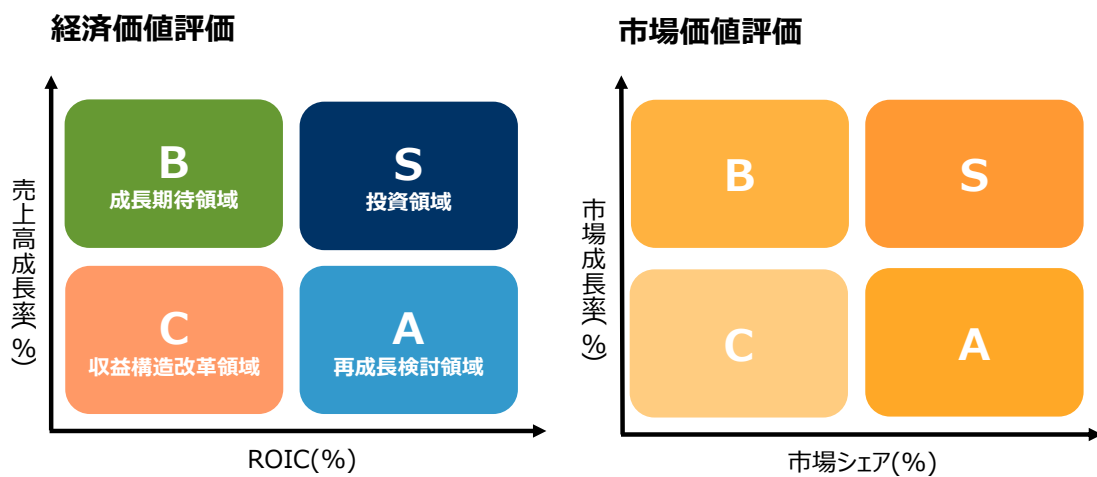
日本経済新聞社 選定

- ✓ 日経225 **2019年3月 初選定**

ROIC逆ツリー展開 (2.0)



事業ポートフォリオマネジメント



ROIC計算式

<連結貸借対照表>

科目	年 月 末
資産の部	
流動資産	
...	
有形固定資産	
...	
投資その他の資産	
...	
負債の部	
流動負債	
短期債務	
...	
...	
純資産の部	
株主資本	
...	
...	
純資産の部合計	
負債及び純資産合計	

当社株主に帰属する
当期純利益

ROIC =

投下資本

投下資本 = 純資産 + 有利子負債

※投下資本は、前年度末実績および当年度の各四半期毎の実績または見通しを平均して算出。

2017～2020年度における想定資本コスト：6%

<注意事項>

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績予想などは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。
3. 当資料は「2021年3月期 第3四半期 決算短信」に準拠し作成しています。
差額、比率については百万円単位で計算し、四捨五入しています。

< I R に関するお問い合わせ >

オムロン株式会社

グローバルインベスター & ブランドコミュニケーション本部 IR部

電話 : 03-6718-3421
E-mail : omron-ir@omron.com
Webサイト : www.omron.co.jp